

出版にあたって

株式会社長谷工コーポレーションの寄附金で設置された寄附研究部門の「海外日本美術情報」プロジェクトも、早いもので四年目を迎えました。本叢書の第一・第二及び第四・第五号で報告済みの文字情報と画像資料に関しては、当センター情報課のもとで順次データベースの構築が進められております。

ロシア、チェコに続き平成六年度の調査は、ハンガリー共和国の首都ブダペストに所在するフェレンツ・ホップ東洋美術館で六月二十日から七月二十二日まで行いました。日本美術コレクションは、フェレンツ・ホップが蒐集し、一括して国に寄贈した四千点余りの作品が、その中枢となっております。ホップの邸宅と共に、日本風の東屋や中国風の石門を配した庭園も国に寄贈され、フェレンツ・ホップ東洋美術館として知られてきましたが、1948年からは、組織的には国立工芸美術館に所属する形になっております。旧ホップ邸の一階は、現在東洋美術の図書館として、また二階は東洋美術特別展の展示場として使用されております。そして東洋美術品の常設展示は、同様に国立工芸美術館の組織下にあるジョルジュ・ラート美術館で行われています。作品の収蔵庫は、新たに設置されたものも含め、総て国立工芸美術館にあります。此の度は1,478点の資料を収録しましたが、浮世絵版画683点に次ぎ比較的大きい比重を占めているのは、ホップが力を注いで蒐集した根付や漆工芸品で、それぞれ215点と155点を収録しました。それ以外、今回は木、牙、銅などを素材とした置物を含む彫刻も93点収録しました。

尚、本報告書は、飽く迄も迅速な基礎資料の提供を最大の目標としている為、資料の照合と調査に費やす時間が往々にして制約されてしまいます。従って、不十分な点も多いかと思いますが、それらは後日コンピュータ上で訂正し、より正確な資料を保存していく計画であり、皆様のご意見、ご批判を乞う次第であります。

本書の出版にあたって、当初よりあらゆる便宜を惜しみなく図って下さった国立工芸美術館のロヴァグ館長はじめフェレンツィ東洋美術部長、それに異常な猛暑にもかかわらず、連日私達の作品調査にご協力下さったキュレーターのチェ氏と美術館のスタッフの皆様、心からお礼申し上げます。同時に日本側から調査にご協力頂いた大橋康二、小松大秀、浅野秀剛の諸氏にも深謝申し上げます。また、偶然にも同美術館へおいでになった武蔵野美術大学の田辺^{さぶろうすけ}三郎助教授には、仏像に関する貴重なご意見を、そしてブダペスト経済大学の盛田常夫客員教授には、現地でのあらゆる情報を頂戴し、感謝申し上げます。

さらに、長谷工コーポレーションからは本寄附研究部門設置の為の寄附を、文化財保護振興財団からは、引き続き調査旅費の一部に対する援助を、そして文部省からは、科学研究費補助金を賜り、厚くお礼申し上げます。

今後とも関係各位のご協力をおおぎ、より充実したデータベースの構築を目指して努力していく所存であります。

国際日本文化研究センター

寄附研究部門

教 授 別 役 恭 子